



交換リングコミュニティ「楽市」

貯めない、稼がない。ただ「巡らせる」だけの新しい経済圏

価値の定義を書き換える

現代のパラドックス： いつの間にか「主役」が変わってしまった

本来の姿



本来の姿：通貨は本来、人の労力やサービスを交換するための「道具」に過ぎませんでした。



現代の歪み



現代の歪み：しかし現在、「いかに稼ぐか」「いくら持っているか」が目的化しています。

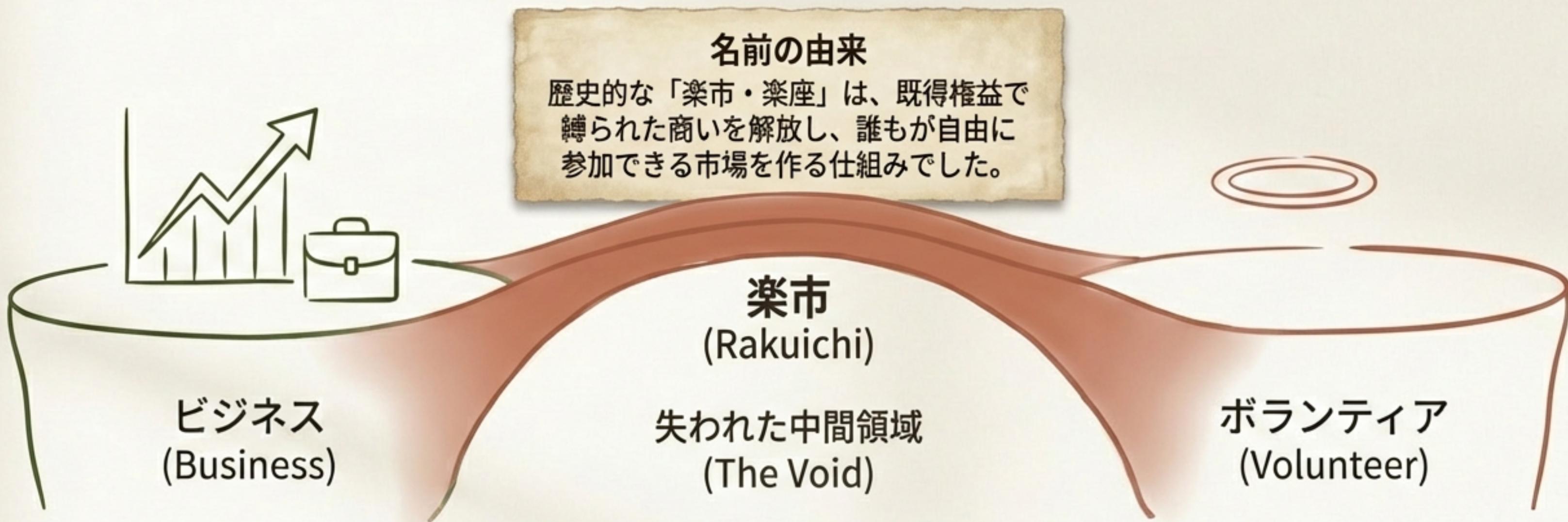
Conclusion：経済がお金を増やすための循環に変化し、人間が生み出す本質的な価値が置き去りにされています。

「ビジネス」か「ボランティア」か。失われた中間領域



儲けを否定すると「自己犠牲」になり、事業化しようとする「ハードル」が上がる。
この二極化の間に、「お金にするほどではないが、誰かの役に立つ価値」が大量に眠っています。

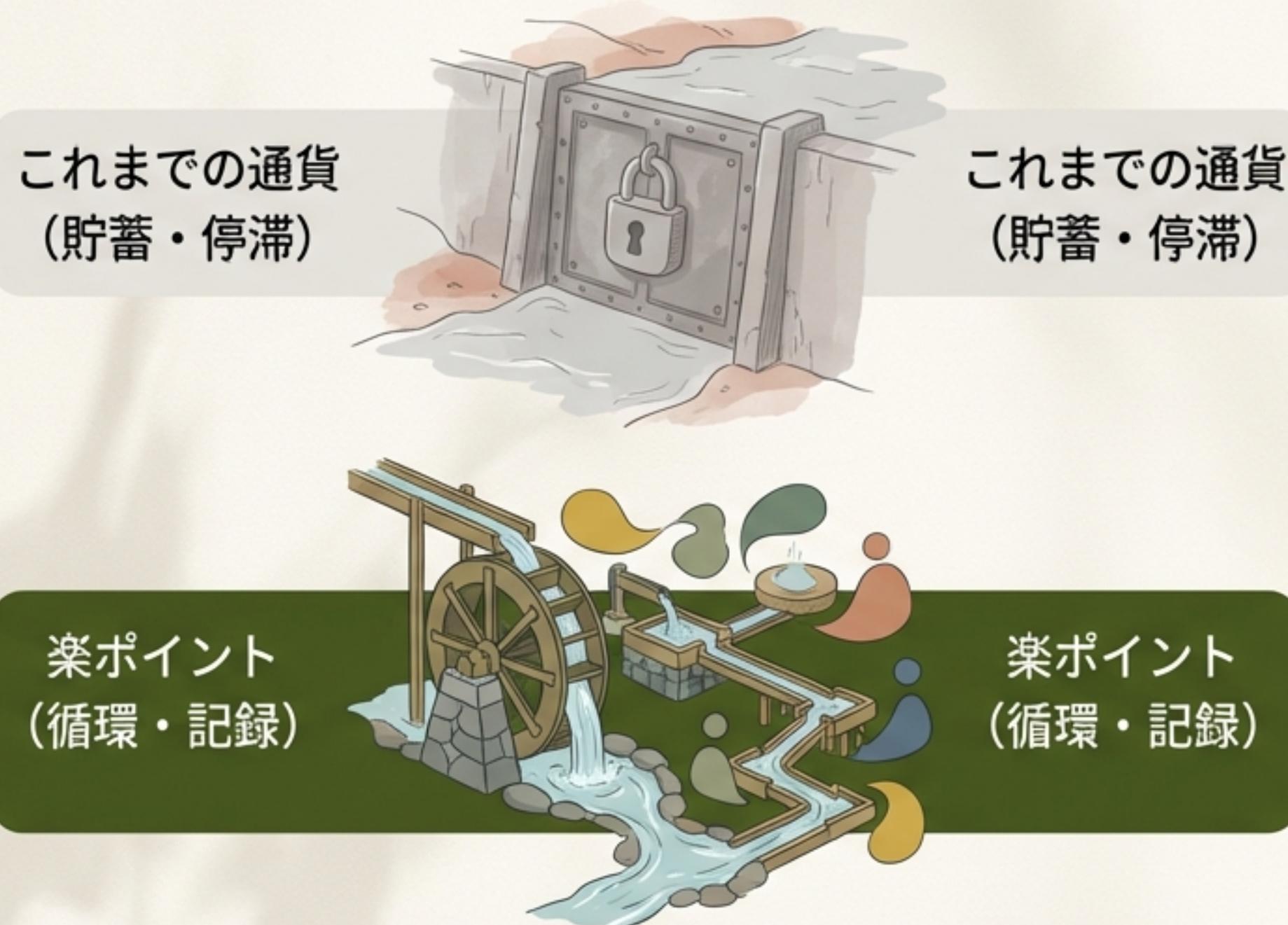
第三の選択肢：交換リングコミュニティ「楽市」



現代の楽市

お金を目的とせず、人の行為・労力・小さな価値に
再び光を当てる「中間の経済圏」です。

通貨は「貯めるもの」から「巡らせるもの」へ



楽ポイントの定義：これは法定通貨ではありません。あくまで交換を成立させるための「記録装置」です。

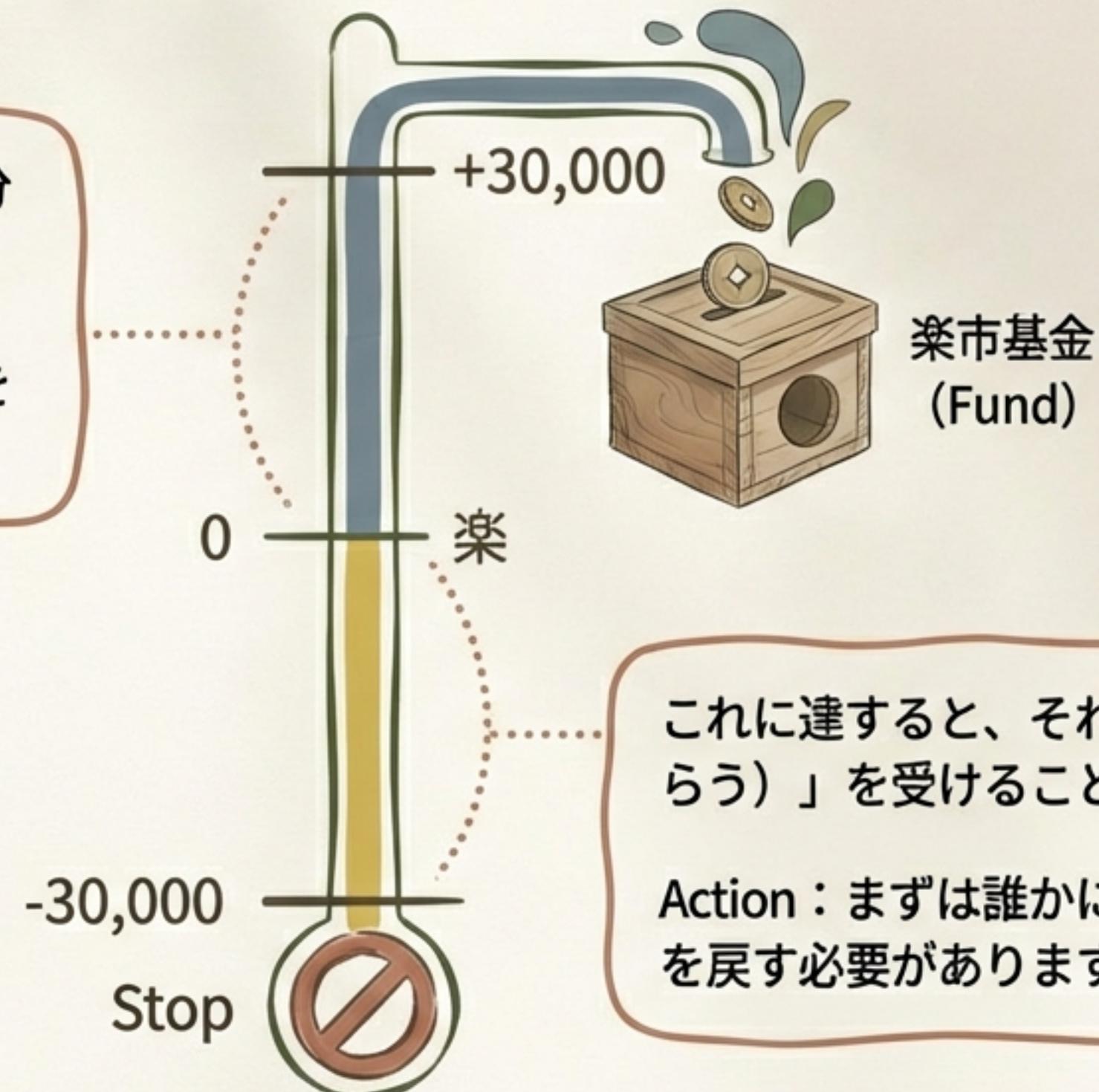
基本ルール：

- ・誰かに何かをしてあげた（奉公）
→ ポイントプラス
 - ・誰かに何かをしてもらった（御恩）
→ ポイントマイナス
- それ以上でもそれ以下でもありません。

循環を強制する安全装置：±30,000楽の境界線

これ以上は貯められません。超えた分は「楽市基金」へ自動寄付されます。

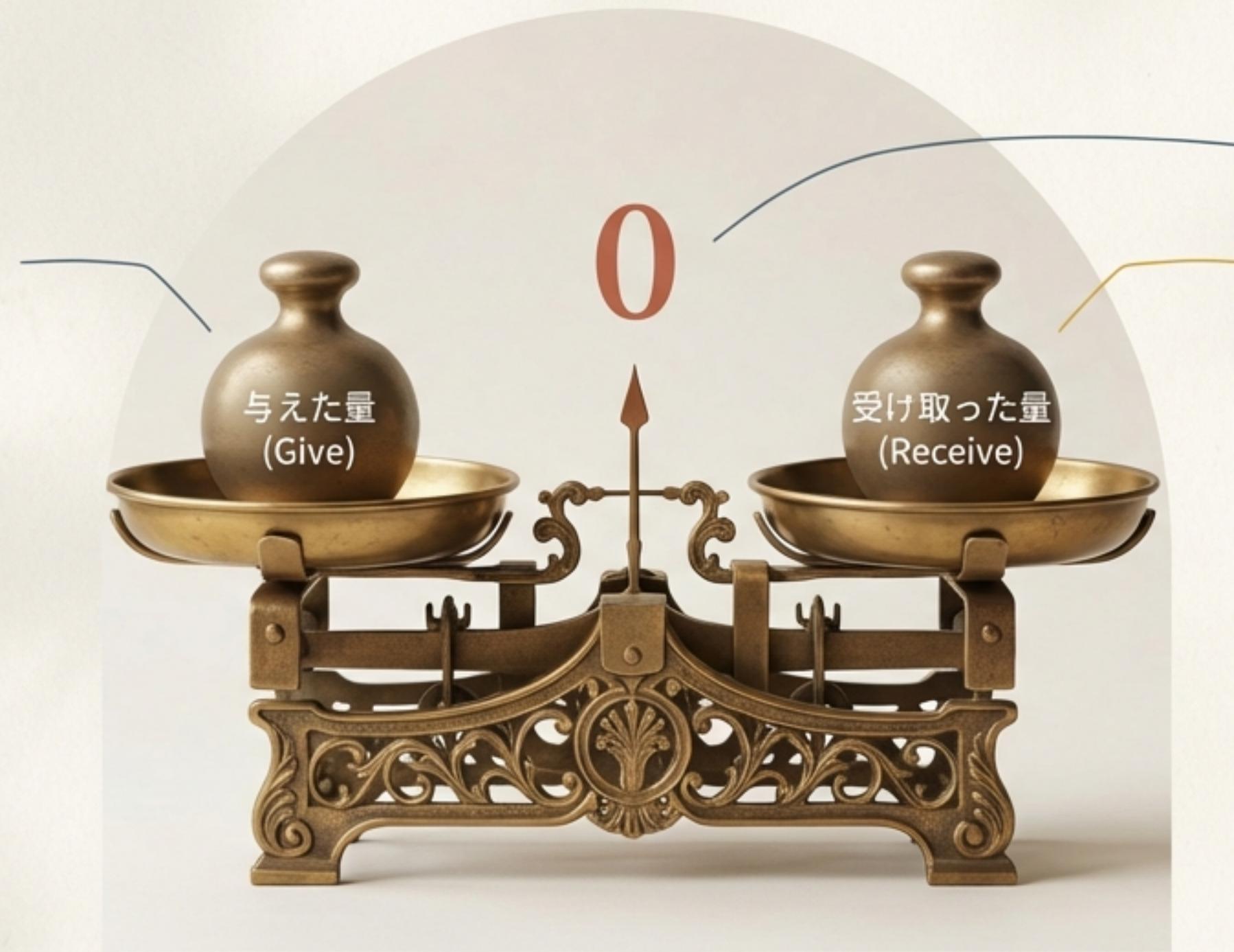
目的：「稼ぐこと」や「貯め込み」を目的にさせないため。



これに達すると、それ以上「御恩（しても
らう）」を受けることはできません。

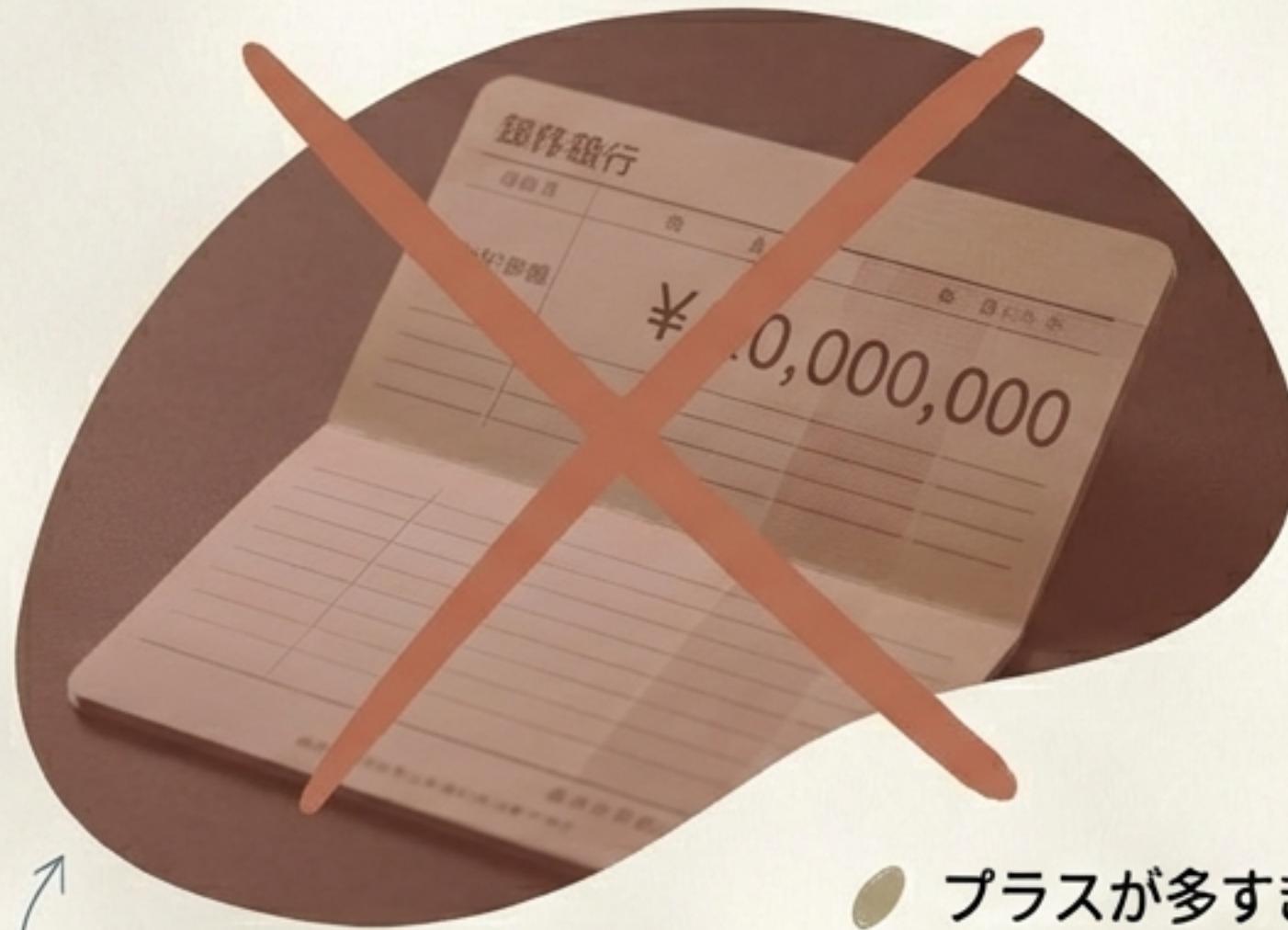
Action : まずは誰かに奉公して、ポイント
を戻す必要があります。

目指すべきは「資産家」ではなく「ゼロ」の境地



- 理想の状態：プラスでもマイナスでもなく、ゼロ付近でバランスしていること。
- その意味：
それは「たくさん与えて、たくさん受け取った」証です。
- 新しい価値観：
経済とは「増やす」ことではなく「回す」ことです。

評価されるのは「残高」ではなく「活動量」



残高の最大化
(Stagnation)

- プラスが多すぎる状態も、マイナスが多すぎる状態も、どちらも「交換が止まりかけている」ことを意味します。
- 重要なのは「どれだけ人と関わったか」。
- 儲けの最大化ではなく、循環の最大化がこのコミュニティの目的です。



循環の最大化
(Flow)

「商売にするほどではない」が、誰かの役に立つ価値



家庭菜園

食べきれない野菜。
捨てるしかなかったものが、
お米やサービスに変わる。



趣味のスキル

好きな占いやコーヒーを淹れる行為。
店舗を借りるほどではないが、
誰かを癒やすことができる。

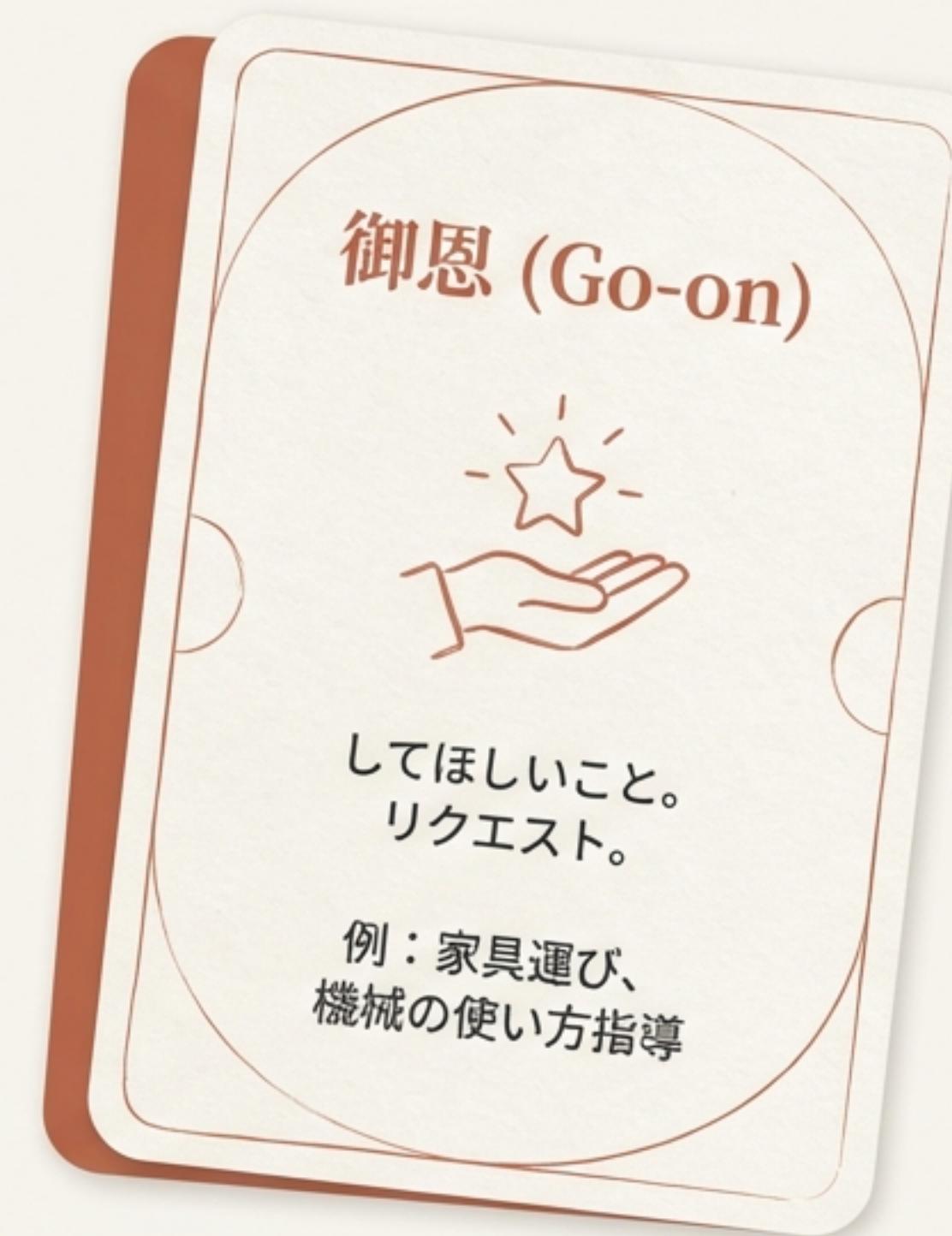


日常の諸手伝い

パソコンの設定、
家具の移動、話し相手。

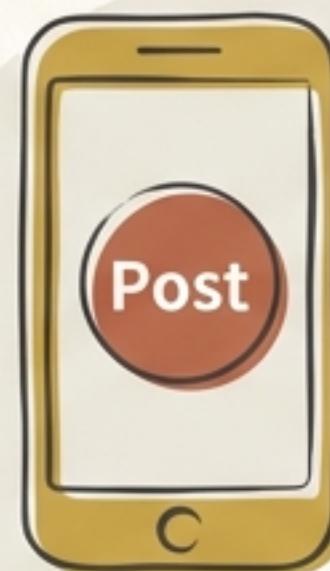
趣味レベルの価値が、そのまま交換可能な価値に変わります。

使い方：その行為を「奉公」 と 「御恩」 と呼ぶ



マッチングから交換までのシンプルな流れ

1. 登録・投稿



「奉公（できること）」を登録するか、「御恩（してほしいこと）」を投稿します。

2. マッチング



「その御恩、奉公できます」と連絡が届きます。日時や場所を相談。

3. 交換・決済



完了後、楽ポイントが自動でやり取りされます。

法定通貨（円）への依存を減らす生活



- ポイントは最終目的ではありません。それは「別の価値への変換装置」です。
- 野菜、食料、助け合いをポイントで交換することで、現金の支出を抑えることができます。
- 自分の得意なことを、無理なく生活の糧の一部に転換できます。

楽市のマニフェスト： 稼がない、貯めない、ただ感謝を記録する

- ✓ 通貨を「増やす」競争から降りる。
- ✓ 「あげる」と「もらう」のバランスを整える。
- ✓ 経済の外側にあった「小さな価値」を循環に戻す。

経済を「数値の競争」から「優しさの循環」へ還す



本来、商売とは「ありがとう」の交換でした。
さあ、あなたのできることを持ち寄って、交換リングを回し始めましょう。

楽市に参加する